ぼくのつく、たおにぎり

田彦小 二年 ささき リク

まかあさんが出かけて、おとうと二人でおるすばんをしていたとき、おとうとが「おなかがいいたい」と言った。キッチンをさがしても食べるものがなにもなかった。すいはんきの中を見ると、おこめがすこのこと、ていることに気づいた。「おにぎり食べる？」とおとうとにきくと、おとうとは「食べる！」と言った。

ぼくは、これまでにおにぎりをつく、たことになかった。いつも、まかあさんがつくってくれるのを見ていただけだったから。まかあさんのおにぎりのつくり方を思い出してつくろうと思った。

まず、ラップを出してその上にごはんをのせた。すこしさましてふりかけをかけた。そして、ごはんをくるんでまあるくにぎった。できあがったおにぎりを、おとうとにわたすと、「おいしい」と言っ、てよろこんでくれた。

ぼくのつくっ、たおにギリは、あ、というま
におとうとのおなかの中に入っ、てしま、た。
「もう一つ食べたい」とおとうとが言、たの
で、ぼくはもう一つおにギリをつくることに
した。

もう一どラップにごはんをのせようとした
ときに、あつくしごは人をゆかにおとしてし
ま、た。それを見たおとうとが、「あはは。
とわら、た。ぼくもつられてわら、た。新し
くラップを出して、こんどはしんちようにご
はんをのせてにぎ、た。おとうとは、またよ
ろこんで食、てくれた。

ぼくは、じぶんのつく、たおにギリをよろ
こんで食、てもらえたことがうれしか、た。
ぼくたちがたくさんごはんを食、ると、おが
あさんがうれし、そうにしている気もちがすこ
し分か、た気がした。

またおとうとに、おにギリをい、っぱいつく
てあげたいなと思、た。